

エネルギー白書から

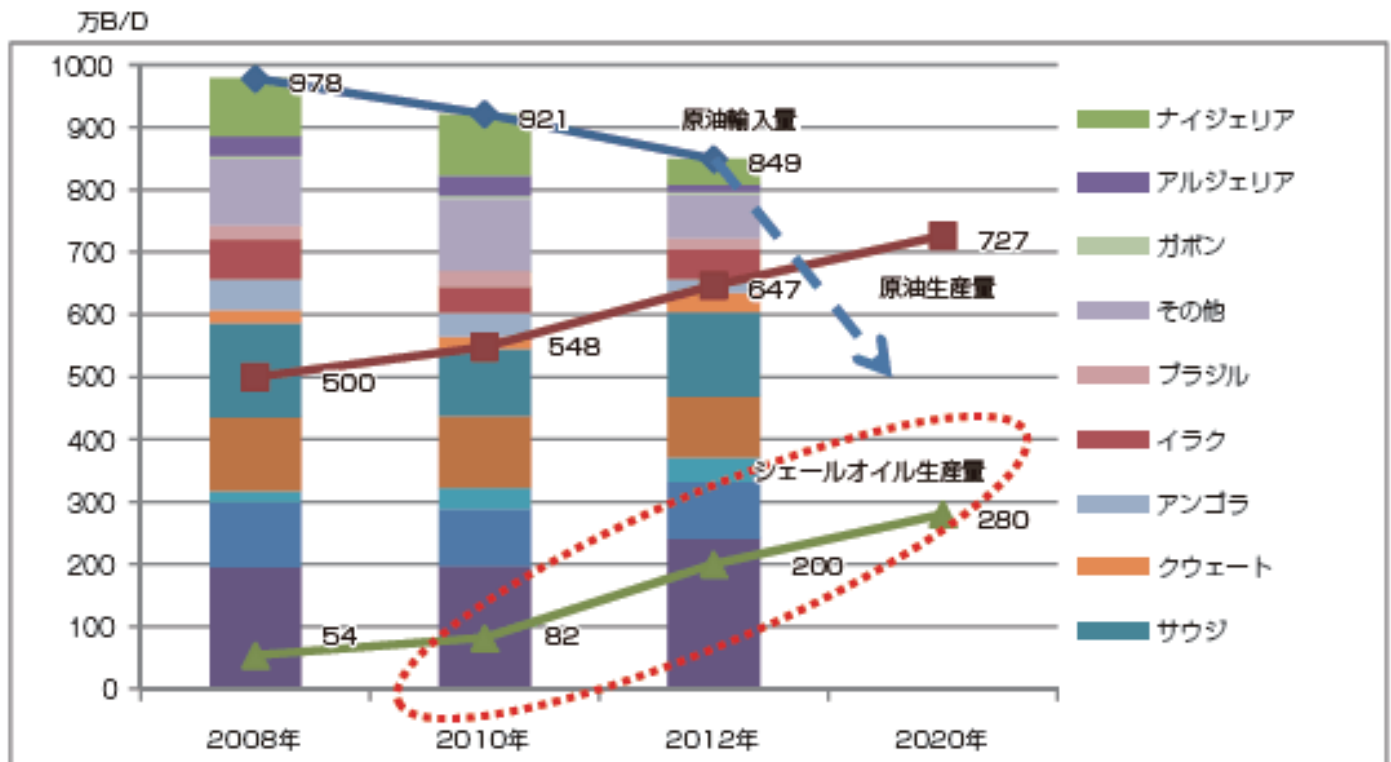
シリーズ第二部 「3・11及びその前後から顕在化してきた課題」

14 「シェール革命」により変わりつつある国際関係

シェール革命により、米国ではシェールガスの生産が本格化し、米国のLNG輸入の見通しが大幅に下方修正されることとなりました。この結果、米国市場へのLNG輸出のために生産量の拡大準備を進めてきたカタールでは、米国という市場を失い、日本や欧州市場の開拓に動き始めました。カタール産LNGの欧州市場への流入と、シェールガス革命の影響により米国内での需要が減少し、価格が安くなった石炭が欧州に流入したことにより、欧州のガス市場において強い影響力を有していたロシアは欧州の電力・ガス事業者等から価格引下げ等の圧力に直面することになり、ロシアがアジア市場の開拓に乗り出す重要な契機となりました。

こうしたエネルギー需給構造の変化は、中長期的には、米国による中東情勢への関与を弱めさせ、結果として中東情勢をより不安定化させる可能性や、アジアにおけるエネルギー需要の中心となる中国の影響力の拡大といった、エネルギー問題の枠を超えた国際関係の変化を引き起こす原因にもなり得るものであり、それが我が国に与える影響についても注視しなければなりません。

米国の原油輸入と今後の見通し



(注1) 米国ではシェールオイルを「light tight oil (ライトタイトオイル)」と呼ぶ。

(注2) シェールオイル生産量は原油生産量の内数。

(出典) EIA「Annual energy outlook 2013」、IEA各種データ等を基に作成